

「瀬川食品」経産省DX認定

厚岸 道内水産加工会社で初

【厚岸】町真栄1の水産加工業「瀬川食品」(澤野恵一代表)が、釧路地域DX推進協会(中島秀幸会長)の伴走支援を得て、経産省のDX認定を受けた。道内の水産加工会社で認定を受けたのは初めてで、澤野代表は「課題解決やビジョンの実現に向けてしっかりと取り組んでいきたい」と意欲を示している。

DX認定とは、デジタル技術を活用したビジネス変革(DX)の準備が整っていると認められた企業を、国が認定する制度。企業のDXへの取り組みを促すとともに、企業の信頼性向上、金融支援、税制優遇などさまざまなメリットがある。

同社は澤野代表を含めて従業員が7人。受発注業務は電話とファクスが主体のため休み関係なく連絡があり、SNSやホームページの更新などは少ない人員で可能な限り行っていた。澤野代表が会社の経営方針や業務改善について考えていた際に中島会長と話す機会があり、同協会による伴走支援の提案を受けたという。

今年の1月ごろから本格的に同協会のメンバーらによる伴走支援がスタート。課題を洗い出し、協議を深めていく中で澤

野代表は「DXとは単に業務をデジタル化するだけでなく、今後の会社の在り方やビジョンを実現させるための手段だということに気付かされた」と振り返った。

認定を受けたことについて、澤野代表は「認定が終わりではなく、これからが始まり。商品生産の効率化や従業員の負担軽減なども含め、さまざまな課題解決に取り組んでいきたい」。中島会長は「DX認定はまだ知名度が低く、大きな企業での取得ケースが多い。今回のことで、中小企業でも認定されるといふモデルケースとなつたのでは」と話していた。



業務の課題解決などについて協議する
澤野代表(右)と中島会長

(須貝喜治)